京の大人的英知、注入マガジン

京都CF!【シー・エフ】

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。ホームページからもお申し込み頂けます。

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。

No.257
2005.5月号
特集
最新京都の中心路
夜の一軒目通は
柳馬場
定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.256
2005.4月号
特集
裏四条河原町PLUS
定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.255
2005.3月号
特集
京都・ラーメン検定
定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.254
2005.2月号
別冊京都CF!
特集
京都に恋した、
みなさまへ。
定価580円
(送料124円/1冊の場合)

年間定期購読

1年間分の「京都CF!」を銀行引き落としにて、4,200円（内、消費税200円）で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局
〒604-8134 京都市中京区六角通烏丸東入ル 大鋸六角ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557
ホームページからもお申し込み頂けます。
http://www.kyotocf.com

POWER PLAY SOUND

Music is moistened our life.
Tasteful album is here.
W'd like to find your recomended one.

歌声は国境を越え、海を渡り、心に映る旅の景色

松田美緒

MATSUDA MIO
http://www.miomatsuda.com/

「物心つく前から歌っていた」という彼女。大学在学中にアマリア・ロドリゲスのファドに出会いポルトガル語を独学で学ぶ。その後「生きたファドの文化を身体で学べた」というリスボンでの生活や、10カ国に及ぶヨーロッパ旅行で様々な音楽文化に出会うなどして、現在、ファドはもちろん国境を感じさせない音楽を追い求めポルトガル圏のさまざまな音楽を歌う。

ATLANTICA／松田美緒
Victor　2800円（税込）

「島国に生まれた日本人は心の内側に海をもっていると思うんですよ。で、海っていうのはいろんなイマジネーションを誘うものだし、絶対に心の中にあるもの。私がテーマにした大西洋っていう海の風景、港のドラマ、そこを渡っていった人のように、感情で旅をする…、マインドトリップというか、頭の中で旅をしてもらえたらいいな」。「マインドトリップ（心の旅）」。デビューアルバム「ATLANTICA」を彼女はこの言葉でもって表現してくれた。

彼女の歌う音楽のひとつに「ファド」がある。日本人には耳馴染みのないものかもしれないが、「ファドっていうのはリスボンの音楽で、運命とか宿命って意味がある言葉なんですけど、大航海時代を経たポルトガルの貧民街から生まれた歌。娼婦の人達が慰めの音楽として自分の人生の宿命などを歌ったものです」。そのファドに出会ったきっかけは「アマリア・ロドリゲスの曲を聴いて惹かれたんですよ。彼女はすごく正直に自分の宿命の歌っていうのを包み隠さずに、喜びも悲しみも歌っている。だからその声の力強さだとか、そういうところに惹かれましたね」。

そして「ファドっていうのは色んな文化の中で混合してでてきた音楽なんで、そのルーツを探っていくと大西洋を渡って、ポルトガルの植民地だったブラジルにも興味をもって、そしたらファドにブラジルのリズムが入ってることが解ったりして…」。「ファドのことを社会学的に調べたりもしてたんですよ。それで全貌が少しずつ明らかになって、それだったら私のファドっていうのはリスボンの嘆きの歌で終わらずに、海を越えていくような歌なんじゃないかなと思って。昔から好きで聞いてたブラジルの音楽、それはやっぱり古い時代にできた音楽なんでファドと大体同じような歴史があるんですよ。そこに関連性があるから惹かれたんだと思いますね（笑）」。

外国語の曲を日本人が歌う場合、どうしてもネイティブではない分だけ、借り物の音楽のようになることがある。彼女はそれが嫌で自分の中に入るまで、自分のものに出来るまで、深いところまで突き詰めるのだという。「ブラジルの曲はポルトガル語でもブラジルのイントネーションとブラジルの発音、ポルトガルの曲はポルトガルのイントネーションで歌わないと。そうじゃないとグルーヴも違いますから」。彼女の歌を聴いたブラジル人が「ちょっとした旅行に行った気分になった」と言ったこともあったそうだ。それは、ネイティブに認められた証。彼女の歌は、今、海を渡り世界へ旅だったばかりだ。